



遠大勵志

防災タウンページ2019を見て

先日、自宅の郵便受けに「防災タウンページ2019」(NTTタウンページ)が入っていたので、大事なことだと思って隔々まで読みました。

電話を用いた安否確認のための災害伝言ダイヤル(171)の使い方。携帯電話やスマホの災害伝言板サイトアドレスの確認。災害に備えた家の安全対策。避難時の携行品。備蓄品。情報収集のためのツール。地震が起きた際の行動の仕方。大雨情報が出たときの行動の仕方。避難所を使う際のポイント。



ト。応急手当の仕方などが丁寧にわかりやすく書かれてありました。家族で共有を図らなくてはならないと思ったところです。

避難情報の種類も書かれていました。

・避難準備・高齢者等避難開始

災害発生のおそれがある場合、いなくても避難を始められるように準備を促すもの。

・避難勧告

災害発生のおそれが非常に高まった場合、すぐに避難を始めるよう促すもの。

・避難指示

川の水があふれ始めたり、土砂災害の前兆がみられるなど危険が迫っている場合、直ちに避難するよう求めるもの。

【もちろん下に進むに従って緊急度は高くなります】

いつ何どき、地震や風水害の自然災害が起きるか、全くわかりません。だからこそ、自分の通学途中や自宅で何か災害に巻き込まれた時に、どういう行動をすべきか、家族と相談しておくことは大事なことだと思います。まさに備えあれば憂いなしです。

自分の命は自分で守らなければなりませんね。



【公衆電話の使い方】

防災タウンページの中には、公衆電話の使い方についても触れられていました。携帯電話の急速な普及によって、街のあちこちにあった公衆電話も激減し、今の若い人たちはその使い方を知らないという現状があると知りました。(私にとっては大きな衝撃ではありますが)興味が湧いて調べてみました。

NTT 東日本・西日本における公衆電話の設置数は、2000年3月には73万5812台あったものが、1018年3月では15万7875台に減少しており、この18年間で79%の公衆電話が姿を消しました。

しかし、緊急時には公衆電話が優先電話として利用されることになっており、第1種公衆電話として市街地では500m四方に一台、それ以外でも1km四方に一台という規準で設置されているということです。



緊急時には、有効な連絡ツールになります。

それでは、その公衆電話の使い方について確認しましょう。

- 1 向かって左側にある受話器を、左手で取る。
- 2 受話器を左耳に当てる。
- 3 右手で10円玉を入れる。
(100円玉を入れるとおつりは戻らない)
- 4 「ツー」という発信音が聞こえたら電話番号を右手で押す。
- 5 話が終わったら、受話器を置く。
- 6 10円玉をたくさん投入していれば、通話後に右下の部分に使用されなかった10円玉が返却されて終了。

どうですか？イメージが持てましたか？

近いうちに、学校や自宅の近くの公衆電話で電話をかけてみることも経験としてやってみてはどうでしょうか？